読み書きの関連学習を通し，物語の創作活動を行う。

第１学年２組　国語科学習指導案

指導者 吉野 有香

1. 単元名　つくってみたよ！こんな絵本！～わたしだけのぐりとぐら～

2. 学習材　「ぐりとぐら」(福音館書店)

3. 単元について

(1) 本単元でつけたい力

本単元では，主に，小学校学習指導要領・国語〔第１学年及び第２学年〕の「知識及び技能」「B 書くこと」「C 読むこと」における以下の能力を身に付けさせることをねらいとしている。

知識及び技能

内容	ウ	長音，促音，撥音などの表記，助詞の「は」,「へ」及び「を」の使い方．句読点の打ち方，かぎ（「　」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また，平仮名及び片仮名を読み，書くとともに，片仮名で書く語の種類を知り，文や文章の中で使うこと。

B　書くこと

内容	ウ	語と語や文と文との続き方に注意しながら，内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。
言語活動	ウ	簡単な物語をつくるなど，感じたことや想像したことを書く活動。

C　読むこと

本単元では，学習材「ぐりとぐら」を視写絵本の出版を通して読むことで，登場人物の言動や造形や文体を理解していく。「ぐりとぐら」を読んだことを基盤に,「ぐりとぐらのおきゃくさま」の挿絵を頼りに，登場人物の行動を具体的に想像し，オリジナル絵本を出版する。また，本活動を通して，かぎ（「　」）の使い方を理解し，オリジナル絵本の中で使うことで，身に付けていくことをねらいとする。

(2) 単元の目標

【知識及び技能】

○かぎ（「　」）の使い方を理解し，オリジナル絵本の中で使うことができる。
(1 (1) ウ) …㊀知

【思考力，判断力，表現力等】

○語と語や文と文との続き方に注意しながら，オリジナル絵本を作ることができる。
(2B (1) ウ) …㊀思

○場面の様子に着目して，登場人物の行動を具体的に想像することができる。
(2C (1) エ) …㊀思

【学びに向かう力，人間性等】

○オリジナル絵本の作成に意欲的に取り組もうとしている。…㊀主

(3) 指導観

〔見いだす〕

□本単元（本時等）の目標（めあて・ねらい）を児童生徒に明示している。

①単元の目標やゴールを知り，オリジナル絵本作成に積極的に取り組む。

幼児期にすでに出合っている「ぐりとぐら」の読み聞かせで，今後の活動への期待をもたせる。そして，教師モデル（視写本とオリジナル絵本）を提示し，子どもたちの「作りたい」という意欲を高める。また，完成したオリジナル絵本は，6 年生のペアの子や教師，保護者に見てもらうことを伝え，相手意識を高めることで，より一層子どもたちの意欲を高めていく。

モデルを見ながら，自分たちが行う活動を知り，「どのぐらいの時間があれば作れそうか」を子どもと考え，学習計画を立てることで学習の見通しをもたせる。その際に，拡大したカレンダーにゴールを示すことで，ゴールを意識しながら自分のペースを調整しながら進めていけるようにする。

〔自分で取り組む〕
□児童生徒が自分の考えを形成したり，思いや考えを基に創造したりする時間を確保している。

②「ぐりとぐら」シリーズを並行読み聞かせを行い，登場人物のことば使いや，表現方法を知り，オリジナル絵本を作成する。

視写本の作成と同時に，「ぐりとぐら」シリーズの並行読み聞かせを行うことで，キャラクターのことば使いや性格を理解させる。また，「ぐりとぐら」への愛着が湧き，オリジナル絵本作成時に，より一層子どもたちの考えが膨らむと考えられる。並行読み聞かせは朝の読書や，授業の冒頭の時間を活用する。

また，オリジナル絵本の作成時には，大体のイメージをもつことができたり，ストーリーを全て完成させてから色塗りをしたり，ストーリーと色塗りを１ページずつ行ったりと，子ども自身のペースで学習を進めていくことが考えられる。そのため，１人１冊の絵本になっている状態で子どもに渡す。

また，ゴールの示されたカレンダーを教室に掲示し，完成の日にちを明確にしておくことで，自分のペースで行えるように促す。

〔広げ深める〕
□児童生徒が多様な考えを理解できるように，互いに学び合う場面を設定している。

③オリジナル絵本を読み合うことで，新しい考えにふれる。

視写本完成後，オリジナル絵本作成後にクラスで互いの作品を読み合う活動を行う。この活動を通して，相手の作品の良いところを見つけたり，自分とは違うストーリーと出合ったりすることで，新たな発見をする。

また，本活動では，相手の良いところを付箋紙に書き，オリジナル絵本の裏表紙に貼っていく。相手（オリジナル絵本の時は，６年生，教員，保護者にも感想を書いてもらう）から見た自分の良いところが形として残っていくことで，自分の良いところにも気がつくことができるだろう。そして，オリジナル絵本への愛着がより一層増すと考える。

〔まとめあげる〕
□児童生徒が板書やノート，作品等を通して思考の過程を振り返り，学んだことをまとめる場面を設定している。

④国語日記（ワークシート）を書き，学習について振り返る。

随時国語日記（ワークシート）を書く。活動のポイントごとに振り返りを行うことで，自分の考えや，気持ちの変化に気がつくことができる。また，様々な人からのコメントを読み，自分の頑張りを自分自身で認め，自己肯定感を高めていきたい。

単元の終わりには，以下の３項目について振り返る。①「オリジナル絵本」を楽しく作ることができた。②（「　」）を使って，「オリジナル絵本」を作ることができた。③お話を最後まで考えて，書くことができた。

4. 全体指導計画（15 時間扱い）

次	時	主な学習活動	○教師の支援　☆評価（方法）
第一次	1	教師のモデル本を見て，これからの学習の見通しをもつ。 ・着語読みをによって，「ぐりとぐら」と出合う。 ・教師のモデル絵本を分析し，どのような活動を行うか考え，見通しをもつ。 ・学習計画を立てる。	○教師のモデル絵本を提示し，学習の見通しをもたせる。 ○着語読みを行うことで，ぐりとぐらとの出合いを大切にし，学習意欲が高まるようにする。 ○学習計画を一緒に作る中で，児童の発言を拾いながら，作成していく。 ☆学習の見通しをもち，意欲的に活動しようとしている。（(主)発言・日記）
	2 3 4 5 6	「ぐりとぐら」の視写本を作る。 ・各場面を視写する。 ・視写の終わった子どもは，絵を描く。 ・何度も音読をする。 ・表紙を作成する。 ・各場面を張り合わせ，一冊の本にする。	○能力に応じたワークシートを用意する。（なぞり・行の一文字目・白紙） ○かぎ（「　」）の書く場所について全体でおさえ，全員出来ているか机間指導を行う。 ○授業の冒頭に，「ぐりとぐら」シリーズを１冊読む。 ☆かぎ（「　」）を正しい場所に書くことができる。（(知)視写本） ☆場面の様子から，登場人物の様子を想像し，活動することができる。（(思)視写本）

「ぐりとぐら」シリーズの並行読み聞かせを行う（課外）

	7	互いの視写本を読み合い，良いところを伝え合う。 ・友達の視写本を読んだ感想や，良いところを付箋紙に書く。	○読んだ感想を付箋に書かせ，視写本の裏表紙に貼らせることで，子ども同士の交流を図る。 ○付箋紙に書けずに困っている子どもに声をかけ，よかったと思うところを聞き出し，付箋紙に書くように促す。 ☆感想を付箋紙に書き，友達と共有することができる。（(主)付箋紙）
第二次	8 本時	挿絵だけの「ぐりとぐらのおきゃくさま」を見て，どのような活動を行っていくのか想像し，活動への意欲をもつ。 ・学習計画を立てる。 ・挿絵だけのモデルを提示し，どのような活動を行っていくのか，考える。 ・挿絵を見て，何をしているのか，何を言っているのか等気が付いたことを出し合う。	○学習計画を立てる時には，児童の発言をすぐに書けるよう，短冊を用意する。また，短冊を並び替えて学習計画を児童と立てていく。 ○挿絵だけの絵本を見せることで，どのような活動を行っていくのか，興味をもたせる。 ○挿絵をパワーポイントで映し，全員が見られるようにする。 ○子どもから出た意見を聞き，クラスで共有することで，次への活動の見通しがもてるようにする。 ☆モデルを見て，これからの活動に見通しをもち，学習計画を立てることができる。（(主)発言） ☆挿絵を見ながら，どのようなお話か考えたり，友達の意見を聞きお話の内容を想像したりすることができる。（(思)発表・日記）
	9 10 11 12	挿絵を見て，オリジナル絵本を作ることができる。 ・挿絵の前後を見ながら，登場人物の発言や行動を考えながら，オリジナル絵本を作成していく。 ・オリジナル絵本のストーリーを作ったり，挿絵を塗ったりする。 ・表紙を作る。 ・完成したものを６年生に読み聞かせすることを知る。	○鉛筆が止まっている子どもに対して，挿絵を見ながら，どのようなことが考えられるか一緒に考え，個別に支援を行う。 ○かぎ（「　」）の使い方を確認しながら，書く場所の違う子へはその都度正しい場所を伝え，書く場所を覚えられるようにする。 ○相手意識をもたせることで，制作意欲を高める。 ☆かぎ（「　」）を正しく使うことができる。（(知)オリジナル絵本） ☆挿絵を見ながら，登場人物の様子を具体的に想像し，オリジナル絵本を作ることができる。（(思)オリジナル絵本）
第三次	13	互いのオリジナル絵本を読んだり，自分の頑張ったところを伝えたりしながら，共有する。 ・自分の頑張ったところを伝える。 ・友達のオリジナル絵本を読んだ感想や，良いところを付箋紙に書く。	○自分の頑張りをうまく言葉にできない子へは，自信をもてるように制作中の頑張っていたところを伝える。 ○付箋紙に書けずに困っている子どもに声をかけ，よかったと思うところを聞き出し，付箋紙に書くように促す。 ☆自分の頑張ったところを伝えたり，感想を付箋紙に書いたり，友達と共有することができる。（(主)発言・付箋紙）
	14	６年生に，オリジナル絵本の読み聞かせをする。 ・自分の作ったオリジナル絵本を６年生に読み聞かせをする。 ・頑張ったところを６年生に伝える。	○読み聞かせをするために，オリジナル絵本を読む練習をする。 ○声が小さくて届かないことも考えられるため，ペア活動の場所に配慮する。 ☆頑張ったところや，オリジナル絵本を６

		・６年生に，感想を付箋紙に書いてもらう。	年生に伝え，共有することができる。 （主発言）
	15	学習のまとめ ・①「オリジナル絵本」を楽しく作ることができましたか？ ②かぎ（「　」）を使って，「オリジナル絵本」を作ることができましたか？ ③お話を最後まで考えて，書くことができましたか？ の３点で振り返りを行う。	○３観点で振り返ることで，自分の頑張りに改めて気が付き，自信をもたせる。 ☆単元全体の振り返りをすることができる。（主発言・日記）

５．本時の指導（８/１５）

（１）目標　　モデルを見て，学習の見通しをもち，学習計画を立てることができる。
【学びに向かう力，人間力等】
挿絵の表情から，登場人物の発言や様子を具体的にイメージすることができる。
【思考力，判断力，表現力等】(2C（1）エ)

（２）展開

時配	学習活動と内容 ◎教師の発問・子どもの反応	○教師の支援　☆評価（方法）
5	１．オリジナル絵本「ぐりとぐらのおきゃくさま」と出会う。 ・絵しかない。 ・文章は，どうするの？	○全体に見えるように，テレビに映しながら，モデルを見せる。 ○今までの視写本との違いに気づけるように，モデル全体を映す。
3	２．本時のめあてを知る。 学しゅうけいかくを，立てよう。	
14	3．どのような活動を行っていくか考え，活動内容を知り，見通しをもつ。 ・自分たちで，文章を作るのかも。 ・やりたい！ ・難しそう。	○どのような活動を行ったら，自分でオリジナル絵本が作れるか問い，必要なことを発表させる。 ○児童の発言を短冊にまとめる。 ○短冊に書いたものをもとに，児童たちと学習計画を立てていく。 ☆活動内容を知り，どのような活動行うか考え，共有したり，話を聞いたりすることができる。 （主発言）
18	４．挿絵を見て，話しの内容を考える。 ◎この絵は，何をしているところかな？ ◎次は，何が起きると思う？ ・きっと冬だと思う。 ・足跡が大きすぎる。 ・足跡を追ってどっかに行くんじゃない？ ・もしかして，サンタさんじゃない？ ・また動物が出てきたよ。 ・サンタさんが，みんなのためにパーティーを開いてくれたんだよ。	○挿絵が見えるように，テレビに映して行う。 ○実際に子どもたちが見ながら物語を作る挿絵と同じものを使う。 ○子どもの発言を拾い，クラス全体に投げかけることで，思いつかない子どもも想像できるようにする。 ○1枚に対して，たくさんの意見が出るように，クラスに投げかける。 ○次の挿絵に行く前に子どもに質問することで，想像する力を高める。 ☆挿絵の表情から，登場人物の発言や様子を具体的にイメージすることができる。 （思発表）
5	５．国語日記（ワークシート）を書く。 ①絵からお話を作る活動は，できた？ ②絵からお話を作る活動は，どうだった？ ・楽しかった。 ・早く作りたいと思った。	○２観点で日記を書かせることで，振り返ることを明確にする。 ○机間指導しながら，子どもの書いた内容を把握する。 ○子どもの気持ちに共感し，今後の活動に気持ちをつなげていく。 （思日記）